

令和6年度 第2回 芳川北小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年8月7日（水） 10時00分から12時00分まで
- 2 開催場所 芳川北小学校 会議室・ほっとルーム
- 3 出席委員 河島 茂男、榎谷 志保、金山 康乃、鈴木 俊徳、廣野 博子、村松 真弓、
山内 佳美
- 4 欠席委員 建部 透、見野 閏一郎
- 5 オブザーバー 古橋 一哲（南陽協働センター）
- 6 学校支援コーディネーター 本康 優子
- 7 学 校 高木 宏康（校長）小野 芳敬（教頭）仲山 麻由（教務主任）
1年担任 河合 美香、加茂 夏季、安藤 麻美、2年担任 新井 将宏、赤堀 芙美子
小城 杏理沙、3年担任 伊藤 友加、池内 桃恵、後藤 敦子、4年担任 勝永 操、
袴田 淳平、廣瀬 りな、5年担任 山下 裕貴、藤田 旭、6年担任 中村 早希、
なかよし担任 片岡 亜裕子、松本 茅世
佐藤 富子（CSディレクター）
- 8 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 9 傍聴者 なし
- 10 会議録作成者 CSディレクター 佐藤 富子
- 11 会議の記録

司会の教頭から委員9人のうち7人の出席があり、会議が成立している旨の報告があった。
会長挨拶、校長挨拶の後、河島委員が議長に立候補し、全員異議なくこれを承認した。

12 熟議＜議長・河島委員＞

河島委員より添付資料「熟議とは」の説明がなされ、是非頭の片隅において芳川北小のための有意義な話し合いを行っていきたいと伝えられた。

各学年の職員が学年毎に取り組んでいるカリキュラムマネジメントについての概要と1学期の実践から見えた成果と課題を発表し、その後、会議室とほっとルームの2会場に場所を移し、各学年の職員と委員との意見交換がなされた。

午前5時間日課と読書の取り組みについて

・午前5時間日課

外部講師との日程が組みやすい。悪天候等で午後の授業をカットした時の授業数のカットが少なく済む。職員の出張は午後に多いが、午前に5時間分の授業をやり終えるため、子供たちが自習を行う授業時間が少なくすむ。

「午前5時間日課は過ごしやすいかどうか」について1学期末に行った子供のアンケート結果では、肯定的な意見が56%で「午後の5時間目は疲れるけど、午前の5時間目は疲れにくい」「給食がおいしい」等の回答があり、給食の残食も減った。「どちらでもない」の回答は26%、否定的な意見は18%で「朝が早い」「お腹がすく」等の回答があった。

・読書活動

担任による読み聞かせ、先生のおすすめ本の紹介の掲示、全校児童が集まる昼の会で校長から本の紹介、親子ふれあい読書、はごろも夢講演会（読書の話や本の紹介）等を実施。学年ごとに全校で取り組んだ劇団たんぽぽの劇団員による音読指導は子供たちに好評だった。

5年生の林間学校で行ったキャンドルセレモニーでキャンドルに火をともした際の黙想がとても良かったと聞いた。自分自身を見つめ直す時間になり、落ち着いて出来ていた。出来る力を持っていると先生方は子供たちを信じている姿勢に感動した。（村松委員）

子供たちは自分の良いところに気付くことが出来ない。ありのままの子供を受け入れる親が少なくなっているのではないかと。親が先に言ったり、動いたりしてしまうから子供が自分の意見を言うことができない。待てない子供は親が話を聞いていないのでは？今言わないと話を聞いてもらえない環境だから待つことや聞くことができなくなってしまうのではないかと。家庭での親と子供との対話が大切だと思う。（鈴木委員）

海外の方に言われて気付いたが、日本人は褒めない。家庭でも社会でも出来ないことを強く言う習慣がある。だから、自分に自信が持てなくなってしまう子が多い。もっと褒めて伸ばすことを意識していきたいと思う。6年生は想像力が必要だと思った。小さい時コロナ渦で過ごして来たので、色々な経験が出来ていないから想像力が少ないのではないかと。もっと経験を増やして想像できるようになって欲しい。（榎谷委員）

学校からの発信が大切、学校でやっていること、家庭でやってほしいことを伝えて欲しい。学校のHPは見ない人もいるから、紙で伝えることも大切。なかよし学年経営構想図に記載されている「自分に合う、できる方法でクールダウン」これを全学年でも行って欲しい。子供に応じたクールダウンをすれば落ち着いていく。6年生の目指す姿、それぞれの目標が自己評価につながる。先生方がしっかり考えて作ってくれているので、子供たちがどう変わっていくのか見ていきたい。（河島委員）

読み聞かせの時間が変わったのでボランティアさんが減った。今までの雰囲気と違いすごくテンションが高いのでクールダウンする本を選んでいく。（金山委員）

昼休みの姿が本来の子供たちの姿なのでは？今までは朝だったので、まだ目が覚めてなくテンションが低かったのかも。今は元気で反応がいい。（村松委員）

子供の意見はポジティブ、親からの意見はネガティブ、子供の意見を親が聞いていなく、親視点の意見が多い。学校からの配信が上手く伝わっていない、保護者に良いところがちゃんと伝わればよいと思う。ボランティア募集の発信が遅い、追加で参加したい方が締切り後の連絡方法が分からない。（山内委員）

理解してもらうには見える形にしないと納得してもらえない。都合で考えず、成果で納得してもらわないと。（河島委員）

学校評価は昨年度まで前後期の年2回行っていたが、前期・後期だと成果と課題が分かりにくいので、年間を通した評価として年1回行うことにした。（校長）

以上のような意見が出され、これからも家庭や地域でできることをやっていくことが承認さ

れた。

13 1学期のボランティア活動の実践

金山委員から、1学期にボランティア活動に参加してくださった方の延べ人数等が報告された。

コミュニティスクールだよりをHPに掲載しているが、ボランティア活動をHP以外でも発信して、地域の方にもっと知ってもらおうとよい。(河島委員)

先生の仕事量が昔よりとても増えているので、要望ばかりでなくプラスするなら減らすこともしていかないと本当に大変。持続可能な活動にしてほしい。(鈴木委員)

協働センターに芳川北小のボランティア募集のちらしを貼って頂くことはできるのか？地域の方に周知してもらう方法を考えていきたい。(本康)

14 その他報告事項等

南陽協働センター 古橋

今まで芳川北小の子供たちの参加がなかったが、学校で直接子供たちにちらしを配付して頂くようになり、募集人数の半数くらいの子が参加してくれるようになった。今後も親子で参加するもの等を開催するので協力してください。

教育総務課 鈴木

保護者、地域の方にカリキュラムを理解してもらうのは難しいが、昨年よりも工夫されていて理解が進んでいる。先生方と話してみたら目標と評価が結び付くことが出来ていた。家庭にも広まっていくことが大切。できることから実行していきたい。

司会から、次回会議は11月5日(火)14時~16時に会議室にて開催する旨の報告があった。また、参観会、校内運動会の日程等が伝えられ、委員に対して参加を呼び掛け、会を閉じた。